

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200473		
法人名	介護サービス九州株式会社		
事業所名	つくしんぼのグループホーム唐津		
所在地	佐賀県唐津市和多田大土井2-35		
自己評価作成日	平成27年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年7月6日	外部評価確定日	平成27年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常時、職員の質・技術向上に努めながら、ご利用者様が自然な形での自立支援「自己選択」「自己決定」、予防「生活療法」を行える様にしています。平成17年に発足し、今年で10年目を迎えました。ご利用者様も高齢化し、ご家族様からはターミナルケアの要望が多くなりました。安心して看取りのできる事業所を目指したいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

民家を活用した事業所であるため、畳や廊下、広縁など利用者にとっては慣れ親しんだ自宅と重なる雰囲気がある。それにより居室より中央の居間で過ごす利用者も多く、職員との会話や笑い声が聞こえている。職員間の信頼関係も厚く、日常のケアで気付きがあれば、互いに注意し合い改善を図ろうとする姿勢が随所にみられ、事業所全体でケアの質の向上に取り組もうとする意識が高い。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を各職員が理解し、母体の理念、事業所理念を毎日朝礼で唱和し確認し実践につなげています。	多くの事業を展開する経営母体は企業理念の他にグループホームの理念も掲げている。職員は毎朝その二つの理念を唱和し意識付けを図っている。「入居者にとって」が理念のキーワードとなっており、職員は日々のケアで悩むことがあれば、その基本理念に立ち戻ろうとする姿勢がうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々をお誘いし、隔月交流会を開催しております。毎月、ボランティアの訪問もあります。今後もますます地域の皆様との交流を広げていきたいと思っております。	自治会に加入し、地区の行事や清掃活動等には積極的に参加している。利用者も一緒に草取りなどをする事もある。敬老会には地域住民を招いたり、毎月ハーモニカやオカリナの演奏に訪れるボランティアもいる。介護に関する様々な相談ごとにも応える用意があり、今後更に交流が深まるよう模索中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの養成を受けたスタッフが3名いるので今後は地域に貢献できるよう地域の集まりに参加したいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所状況をありのまま報告しています。皆様からいろんな意見や情報、希望を頂きますのでサービスの改善と向上にむけて取り入れております。	運営推進会議は外部の方の目が入る貴重な機会であると捉え、双方向な意見交換の場となるよう努めている。メンバーの出席率は高く、全ての家族に周知され、出席を促している。出された意見は真摯に受け止め、改善へと繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メール等できめ細かく協力体制ができています。事業所での事故発生時や実情等を報告し、担当者の方から指示等頂いております。	運営推進会議のメンバーでもあることから日頃から顔なじみである。相談や問い合わせの内容によっては直接出向くこともある。最近では介護報酬等の変更もありアドバイスを受けていたりしているが、実直に対応してもらえる関係が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関、窓は開放しております。事業所内で身体拘束についての研修を行い、理解を深め日常生活に身体拘束をしないケアを実践しています。	職員は年一回の研修を受け、身体拘束の内容とその弊害についても理解している。玄関に施錠はなく、センサーの設置はあるがオフのことも多く、それに頼ってはいない。職員は中央の居間におり、目配りや気配り、また職員同士の連携によって入居者の安全で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待防止についての研修を行い、理解を深めています。スタッフ同士お互いに「その行動は虐待に繋がるような事ではないか？」と話し合いをしました。個人では気づかない部分も指摘を受けることで防止、対応しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修を開催し、利用者が必要時は活用できるように行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切、丁寧に言い不明な点はいつでも問い合わせ可能にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人には日々のケアの中で要望等の情報収集を行い、ご家族に関しては面会時、利用者状況、要望等をお聞きしています。又、運営に反映しています。	家族が来所の折には何でも話してもらえようような雰囲気作りを心掛けている。あまり意見を口にしない家族とはケアプラン等の話題をきっかけに意見をいただけるよう努めている。また来所が少ない家族には電話をかけ、想いや意見を汲み取ろうとしている。事業所の外に意見や苦情相談の窓口があることは書類に明記され説明も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、又日々の朝礼時に機会を設け職員の意見や、提案を反映しています。	月一回の職員会議は非番者も出席し18時から開いている。会議内容を事前に周知したりレジュメを作っておくことで限られた時間を有効に使っている。日々のケアの中で生まれる悩みや疑問等にも全員で改善策を話し合っている。管理者は会議だけではなく日頃から職員とコミュニケーションを図り、現場の意見に耳を傾けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や能力で、パートから社員へ移行して頂き、やりがい等に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に合わせ、毎月研修を行いトレーニングを行っています。日々のケア方法について不安な面はその都度事業所内で指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、唐津にて研修が開催されていますが、あまり参加していません。個人的には同業者の交流はあるようです。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を開催し、ケアプランを作成し、利用者が少しでも安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を開催し、ケアプランを作成し、ご家族の要望を取り入れ、少しでも安心して頂くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当者会議を開催し、ケアプランを作成し、その都度必要とする支援を臨機応変に行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所理念を念頭に置き、暮らしを共にする関係を築くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所理念を念頭に置き、暮らしを共にする関係を築くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人友人の方など自由に面会でき、各居室等好きな場所での面会をして頂いています。又、近所の方や外出先での知人にお会いする機会があった時も挨拶、会話等されています。	入居の際には本人や家族はもとより、担当のケアマネジャーや利用していた他の事業所等からも情報を集めている。行きつけの美容院へ通うことや、電話・手紙の希望があれば当たり前のこととして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、掃除、食事作り、おやつ作り、散歩、ドライブ等を日々行い、利用者様同士関わり、支え合える事業所作りを行っていますが、時折利用者様同士口論になる時があります。そのような時は利用者様同士が解決できるような時は様子を見て、出来ない時は支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたり、在宅復帰された方もいらっしゃいますが、時々ご連絡を下さり状況を伺い知ることができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で利用者様の表情や会話の中から、家族の話から思いを感じ取るようにしています。	日々の関わりの中で利用者の想いを汲み取ることができるよう努めている。特に、隣に座って話し相手をしている時などにはリラックスした利用者が想いを口にされることもある。それらは全て個別記録に記され職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で情報収集し、ケアに役立っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で情報収集に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしています。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、会議を行っています。	日々のケアの中での気づきや「入居者にとって」の視点から計画を作成している。また、その見直しは設定期間ごとではあるが、変化があればその都度行い、臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を記録し、職員間で共有しながら必要時はケアプランを変更しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の個々のニーズに柔軟に対応できるように勤務態勢も工夫し取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要性に応じて、ボランティア、消防、行政と協力をしながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を図りながら適切な医療を受けています。	入居前からの馴染みの医師のところへ通う利用者もあり希望に沿った対応をしている。受診に家族が付き添う場合でも必ず職員も同行し日常の様子等を伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護を利用させて頂き、お互いに情報交換を行い、状態変化の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医やソーシャルワーカー、看護師と連携を図り、医療機関との協働に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医、訪問看護、行政と連携を図りながら支援に取り組んでいます。	これまでに数回の看取り経験がある。入居時にターミナルケアについての説明も行っている。容態の変化に伴い本人や家族の想いも揺れ動いていくため、その都度、何度でも話し合いを重ね、安心して納得のいく最期を迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度の誤嚥時の対応方法、心肺蘇生法の訓練を実施しています。又、その時の利用者様の状況に合わせ事故の予測を立て、職員会議等で話し合いをしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを基に、環境整備等にも気を付けています。年に2回の消防署指導の消防訓練を行っています。又、事業所内で月1回の消防訓練を実施しています。	年2回、消防署の立会いで行う訓練を昼間帯に実施している。地域住民の参加も得ているが今後は更に理解を広げていきたいと考えている。職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。一次避難場所についても家族へ周知している。非常食や水などの緊急持ち出しリュックが用意されているが中身については更に検討課題としている。毎月1回、独自に入居者と避難訓練を行っていることや、消防署からのアドバイス等には速やかに対応している姿勢には災害対策の意識が高いことがうかがえる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人にあった分かりやすい言葉遣いを心がけ、言葉かけの方法を区別して対応しています。	接遇に関する研修も受けている。年長者として敬意を払い、介助が必要な時もまずは本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている。職員同士が注意し合える環境でもある。ホーム便り等に掲載される写真については本人や家族の承諾を得ており、個人情報に対する意識も高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には自己決定されています。迷うときは選択肢を提案し、自己決定できる支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大元の生活のリズムはほぼ決まっていますが、利用者様の中にも高齢や身体状況によっては日々ペースが変化する方も出てきたので一人一人にあった支援を行っています。日曜日にはその方の希望を聞いて外出しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでおしゃれを楽しんでおられます。衣類の選択ができなくなった利用者にはその日の天候にあった物や好きそうな衣類を職員が選んで身だしなみを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いやアレルギーを把握し、代替等を行っています。食べ物はその人の嚥下や咀嚼にあった形態に変更しています。職員も一緒に食事し楽しい時間を過ごしています。	月曜から土曜までの食事は法人内の配食事業から毎日届けられる。温めたり、利用者合った形状に変更したりして提供されている。カロリー計算や調理に要する時間短縮がメリットである。日曜は事業所対応しているため、利用者の希望に沿ったメニューとなったリ、一緒に準備をすることもある。時には梅酒などのアルコールも提供し、食事は職員も同じ物を同じテーブルで会話を楽しみながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人一人の活動量、病状に合わせて、主治医・訪問看護と相談しながら栄養摂取量を決めています。食量、水分量は記録を行い脱水予防に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、利用者様にあった器具を利用し感染予防に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を把握、記録しながら自立に向けて支援しています。暑くなりましたので、リハビリパンツ→布パンツ等使用変更しています。	排泄に関する自立者は若干名である。チェック表はあるが職員は日常の動きの中で察知し、さりげない誘導を心掛けている。職員はトイレで排泄が出来ることの大切さを理解しているため、細やかな支援により、紙製から布製のパンツの使用に改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を理解し、適度な運動や飲食物(牛乳、杏仁豆腐含む)の工夫をしているが、上手いかわない利用者は主治医へ相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度、本人の希望、体調・病状に応じ予定を決め入浴しています。当日、入浴したくなければ次の日に行ったりしています。	毎日の入浴を基本としている。浴室では安全に配慮した器具が用意されている。浴槽の深さ調節用に沈めて置く台や、吸盤が付いた滑り止めスノコなどがその例である。脱衣場や浴室は季節により暖められ、衣服の脱ぎ着は羞恥心に配慮しながら出来るだけ本人に任せ見守っている。入浴を拒む方にはタイミングをずらしたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況で就寝時間が変わるので一人一人に合わせた就寝ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が処方箋を確認できるように保管し、チェック表を利用しながら誤薬のないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人が楽しみからできる役割を考え、実践して頂いています。自ら好みの食べ物、飲み物を伝えられ外出時に外食できるなど気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に応じて、できる限り外出・ドライブ・散歩に出かけます。又、ご家族の依頼があればご家族との外出・外食等も行っています。	周辺への散歩などは天候や体調をみながら出来るだけ行うよう心がけている。車椅子対応車両ではないが数名ずつ分かれてドライブへも出掛けている。通院ではなく、往診となり外出できない利用者もいるが、可能な限り機会をつくって外出を楽しんでもらおうとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診、買物する際は、利用者様にお預かりしているお金を渡し、支払い等行って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば直ぐに対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、床の間には季節花を飾り、利用者が季節を感じ、安心して生活できますように工夫しています。又、室温や湿度も適度に調整しています。	民家を改修した事業所である。畳や廊下の雰囲気は自宅と重なる部分が多い。道路から奥へ入るため車の騒音も殆ど感じない。広縁には日差しが入り、その隣に置かれたソファーでは利用者が思い思いに一日を過ごしている。不安を与えないように物の配置はできるだけ変えないなど、こだわっている点もある。浴室やトイレはきれいに掃除され嫌な臭気もない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は殆ど居間で過ごされます。縁側にもフリースペースを設けて景色を楽しんだり、ひなたぼっこして一人でも好きな時間が過ごせるような場所があります。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物に囲まれて、居心地良いように過ごされています。	原則、居室に持ち込む品物に制限はない。馴染みの品物を活かしながら居心地よく過ごせるよう支援している。お仏壇を持っている利用者も複数いる。居室の掃除は職員が行っている。家族が希望すれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心がけ、事故予防に努めています。利用者が生活の中で必要な物は位置を変えずに「できること」「わかること」を妨げないようにしています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない